

第6回塩竈市長期総合計画審議会の概要

日 時	令和3年1月22日(金) 18:30~20:00
場 所	塩竈市魚市場中央棟2階 大会議室
出席委員	柳井会長、草間委員、佐々木委員、渡辺委員、丹野委員、土井(儀)委員、田中(京)委員、佐藤(京)委員、赤石委員、今野委員、江湖委員、土井(萬)委員、本間委員、大山委員、佐藤(浩)委員 以上15名 欠席委員10名
塩 竈 市	副市長、教育長、市民総務部長、健康福祉部長、産業環境部長、建設部長兼政策調整監、教育部長、市立病院事務部長、水道部長、危機監理監、財政課長、行政改革係長 (事務局)市民総務部政策課
委託コンサルタント	(株)国際開発コンサルタンツ
司 会	政策課長

1. 開会

2. 会長挨拶

震災から10年となる。被災地にいた私達は、この10年で何を学んだのかをずっと考えていたが、だいたい2つの言葉に集約できると思う。1つは、被災しても立ち上がった方のお話から伺えるのは、工夫をするようになったということで、人との繋がりや商売の仕方、新しい芸術の動きなどがぼつぼつと見えてきた。もう1つは、共助である。震災後は、お互いが手を携えながら復興を押し進めてきた。東北人らしい助け合いの精神が息づいている。単にコミュニティの共助だけでなく、企業同士の共助(サプライチェーン)、人と企業の共助、NPOや行政などの共助もある。お互いが繋がることで様々な節約ができた、新しい力を引き出していった。そういうことを確信できた10年間だったと考えている。当然、被災地であった塩竈市にもそういった動きがあった。

今回、私達が守ってきたこと、発見したこと、育ててきたことを、長期総合計画に埋め込んで、皆さんの力をもっと引き出していけるようにしたい。そうすれば、コロナ禍においても、きっと新しい知恵や生き方が見いだせる。そういった意味でも「みんなで頑張りよう」という気持ちを含めて、次の段階に進めていきたい。是非、ご協力をよろしくお願いする。

3. 議事概要

(1) 第6次長期総合計画基本構想素案について

事務局から「第6次塩竈市長期総合計画 序論・基本構想素案」について説明後、意見交

換及び質疑応答

① 序論について

(委員) 序論はかなり見やすくなった。データを後ろに持っていったことでデータが集中して分かりやすくなった。最後の地域経済循環図で「漏れバケツ理論」の話まで進んだので、非常に良いのではないか。特性も、人口についてはマイナス面が現れているが、地理と産業は強みを書いているので、これで良いと思う。

11 ページの5 番の見出しは、他の項目が大きい話で書かれているし、10 年の間に他の感染症のリスクが浮上するとも言われているので、新型コロナウイルスではなく「感染症による社会経済の影響と変化」ぐらいに留めた方が良いのではないか。

(委員) 9 ページの産業特性は、帯グラフを見ると「運輸業、郵便業」が13.1%と他よりかなり高い。港町のイメージは、漁港だけではなく貿易・物流も含めて港町のイメージがあると思う。塩竈の強みは、東北本線が開通したことにより、物流の拠点であったということが今でも大きな役割を果たしている。市民の方が目にする機会はあまりないが、塩釜港には貞山ふ頭や石油基地など、水産業とは別の拠点もある。グラフでも運輸業がこれだけ高いので、内訳でちょっと触れていただきたい。

(事務局) 指摘のとおり高い割合になっている。改めて表現を追加したい。

(委員) 前回の議事録を拝見し、事務局から「10 年後のまちのすがた」は「総花的」という表現をされていたので、年次的なものではなく、将来的な姿を議論していることを改めて理解した。6 ページの「計画の構成」について、事業所では事業展開するときにPDCA サイクルを行う。実施計画については3 年間のローリング方式で計画するというが、計画の効果検証はしないのか。

(事務局) 三角形（ピラミッド）の一番下にある実施計画では、3 年間のプランについてPDCA サイクルを回すことになる。主な事業の内容について目標指標のようなものを立てる予定である。その達成状況等について確認しながら進めていく。現在の第5 次長期総合計画でも3 年間の事業を構築して、事業を適宜見直ししながら進めていくという体制としている。

(委員) 8 ページの人口密度は、3,681 km²/人ではなく 3,681 人/km²ではないか。

(事務局) ご指摘の通りである。

(委員) 7 ページの人口特性は、他の2)、3)のように宮城県や全国との比較があった方が、より塩竈市の立ち位置がわかりやすくなって良いのではないか。

(事務局) 54 ページのデータ集の方に近郊の仙台都市圏市部と比較している表を載せている。

(会長) このようなご意見は、多分何人かの皆さんが持たれていると思うので、例えば、図何ページ参照といった形で、工夫して資料との関連を示してほしい。全部に示すと見にくくなってしまうので、特にポイントとなるところに入れることで良いかもしれない。

② 基本構想について

(委員) 26 ページの産業の③に、港について「塩釜地区の利活用と周辺地区の整備」とさらっと書いてあるが、塩釜が物流の拠点であり続けていること、現代でも大きな役割を果たしていることが、もっとよく分かるように書いてほしい。

23 ページに「東日本大震災からもう 20 年」と書いてあるが、これは 10 年の間違いではないか。それとも 10 年後を想定して書いているのか。

もう 1 点は、文化について過去の歴史あるものを継承していくことも非常に大きなことだが、未来に向けて新しい文化の創造、発信も非常に重要ではないか。

(事務局) まず、26 ページの内容については、塩釜市の産業の特長も踏まえて、もう少しボリュームを付けて内容を加味したい。

23 ページは 10 年後のまちの姿を表しているので 20 年となる。そのことがうまく伝わるように表現方法の改善について考えてみたい。

最後に文化について、29 ページでは、今から 10 年後も文化が引き継がれていて、それをさらに継承していこうというニュアンスを表現したかった。おっしゃる通り新しい文化の創造も非常に重要であり、入れるとすればこのページの中でニュアンスを伝えることになるのではと思う。検討させていただきたい。

(委員) 「快適で住み続けたいと思うまち」のところで、『コンパクトで利便性が高く、すぐれた景観を有する地域特性を生かした、安全・快適で魅力的な住環境整備』は理想だと思う。しかし、景観を有する土地の家が空き家になってきているという現状がある。最近、若い人たちは平らなところに住んで来ており、10 年後に「景観を有した土地」を生かせるのか考えてしまった。

(会長) コンパクトシティに関わってくる意見である。

(事務局) これは施策の柱であり、目標である。塩釜市は、入江で坂道が非常に多いということは、景観が優れているということの表現でもあり、日本三景松島を望むことができる丘もある。その中で空き家対策問題は、非常に重要な課題と捉えていて、きちんと対策しながら解決していきたい。現在取り組んでいる塩釜市の魅力を語り合う「未来の 100 の暮らしワークショップ」の中でも、「塩釜は坂が多い」ことや「老人等が歩くには大変だ」という意見があった。ワークショップでは、これを裏返して、「坂道があって景観が綺麗なまち」、「子どもと老人が手をつなぎながら坂道を登っていく姿がある」、「足腰が強くなる」等、良い面をとらえて 100 の暮らしとして表現している。若手の方々は、平地が好きかもしれないが、塩釜は坂のまちで景観が綺麗だという 1 つのメリットと捉え、塩釜のまちの特性として若い方にも PR する努力が必要と考えている。

(会長) 人口減少、空き家問題は、何もしなければそうなるという悲観シナリオだと思う。ここが長期総合計画の頑張りどころであり、特に実施計画ではそこを手厚くして、い

ろいろなやり方で知恵を出していく必要があり、重要な問題点である。

(委員) 空き家は全国的な問題で、空き家対策を制したまちがこれからは発展していくと思う。宮城県はまだ空き家は少ない方だが、これからますます多くなっていくだろう。新しく家が欲しい若い人達は、必ずしも新築に拘らない人も増えてきている。空き家対策がこれからのまちを左右するかもしれない。

(会長) 宮城県は震災があったために、空き家が少ないがこれからは増えてくるだろう。2～3年前のデータでも全国で800万ぐらいの空き家があり、今はもっと増えている。東京の世帯数は700万だから、数字上は東京に建つマンション全部よりも空き家の数が多いことになる。しかし、リノベーションや取り壊して広場にする等、色々な活用がある。問題はどのような共助の形が築けるかである。他者との繋がりが無ければ、隣に100万人いても意味はない。たとえ50人でも繋がりがあり、お祭りや飲み会等、何か活動したり出来れば、そこに暮らすことが楽しくなってくることも十分ある。そういう仕組みづくりを、これから塩竈はモデルとして行っていくことが大事だと思う。

(委員) 実は、私も坂道の家の人達と何か出来れば、そこに若い人が住んでくれればと思っていた。そんな塩竈になってほしい。

(委員) 22ページで市立病院について書いていただきありがとうございました。一般的に自治体病院は、お荷物の発想で捉えられているが、他の自治体よりも当市の市立病院は、比較的健闘していると思う。22ページの③は、市立病院が中心となって福祉もやっていくんだというように、もっと柔らかく表現していただくと柔軟性が出ると思う。

(委員) 今の市立病院の話については私も同感だが、これとは別の検討委員会が進んでいる。ここには、財政の話がほとんど書いてない。塩竈の財政力指数は極端に悪いわけではないが、人口減少下において財政面でかなり大変な状況になってくるはずだ。そういう意味では、現在の市立病院の記述は地域医療の安心につながっていくということはあるが、病院のあり方検討委員会の提言と整合性を取っておかないといけない。かつて塩竈市が大塩竈市だった時は、自分達で市立病院を治めるだけの力があつたが、人口が4万人になってきたときには、広域的な形でなければとても維持できないと思うので、その現実をある程度踏まえた表現とした方が良いのかなと思う。

(会長) あるまちでは、小児科や産婦人科が無いために「子どもは産めない」と言われて、お父さん、お母さんが絶対入ってこないという。そのまちではまちづくりのワークショップをやると、その議論がスタートになる。学校教育もそういった点に問題があるということで、18歳以下がみんな不幸だという話になってしまった。そういった意味で、病院はあること自体、ものすごく大切なことで、あるから人が来てくれるというように考えると、実は、福祉だけじゃなくて、まちづくりであったり、生活そのものであったりする可能性もある。私が横串と言っていたのは、そういうことだ。大き

な病院の在り方を無理矢理小さな福祉というカテゴリに落とし込んでしまうと、大事な本来持っている機能も含め、その議論が全部切られてしまう。だから、市民が誇れる、愛される市民病院として位置づけられるよう、もう一回確認した方が良いと思う。無くなってしまったら、外から人は来たがらない。

(事務局) 事務局で作成した主旨は「安心できる地域医療体制の充実」ということであった。

塩竈市は、狭い市域の中で医療体制が整っている病院がたくさんあり、市立病院に限らず、病院全体としての医療体制の充実を図っていくということを、地域医療に軸足を置いて表現した文章であるが、ニュアンスの調整を図りたい。

(会長) 役所は地域にとって一番のシンクタンク集団であり、地元で一定のことをやりこんでいる組織である。塊、まとまりになるようなものは、必ず横串の議論で繋がっていく。病院もそうだ。横串を睨みながら、そこをどうしていくかは地域政策のやり方の1つだと思う。だから、そういう問題を狭く考えない方がいい。

(委員) 浦戸について、取り上げていただいて有難い。1点だけ確認させてほしい。33ページで「そんな癒しを求めて浦戸には色々な人が訪れる。仕事をする人、遊びに来る人、そして新しく住み始める人」とある。浦戸に簡単に住むことが出来るのだろうか。

(事務局) 浦戸は市街化調整区域で、かつ特別名勝松島の保全地域(保護地区)でもある。ここに家を新築、増築、改築するのは法的に難しい部分が多い。ここに「新しく住み始める人」と書いたのは、目標であり、浦戸の法的な縛りに何とか風穴を開けたいと考えている。もちろん法律は浦戸を守るためのものだが、浦戸の地域コミュニティを継続していけるように頑張っていきたい。浦戸から人がいなくなってしまうことは避けたい。

(委員) 21ページ「みんなが生き生きしているまち」には、下の方に「頼りになるお医者さんや保健師さんなどがたくさん」とある。実際には地域の民生委員や健康推進員、包括センターの方等もたくさんいて頼りになるので、地域にはそのような活動をしている方々もいるという文章も加えていただきたい。

(会長) 草の根で頑張っている方もちゃんと書いてほしいということである。

(委員) 前回の素案よりも読みやすく、塩竈のまちを大切にしなければならないという思いで読めた。14ページの塩の話は、塩竈で古くからの製法で塩を作っているのを見学したことがあり、塩の結晶のでき方や神秘性、さらに「手塩にかける」という言葉がここからきているということを思い出しながら読むことができた。この部分はすごく良いと思うし、「結晶」という言葉もこの計画では大切にされた方が良いと思う。

(委員) この絵は一体どなたがデザインされているのか。ぱっと見たときに一番最初に入ってくるので、意外に大事だと思う。

(事務局) 絵は塩竈市出身のイラストレーターが描いている。今までの計画では、写真を載せていたが、写真では現況に留まってしまう。10年後の未来を語る本なので、あえてイラストで表現することで未来を分かりやすく表現したいと考えた。女性が描い

ている。

(委員) 個人的には、10年後というより現状かちょっと前というイメージを受けた。イラストに温かみがあるので良いと思うが、27ページは海産物に見えなかった。それとスマホも10年後はこんな感じではないかもしれない。

それから、前に戻って序論のところで感じたのは、大事なところに下線が引いてあるが、下線部の個所が多いのではないかと思う。

(事務局) イラストに関して、厳しいご指摘をありがとうございます。むしろ私は感覚的に良いと思っていた。「未来の100の暮らしワークショップ」でも、この方に、各グループの話を聞きながら2~3分ぐらいで「暮らしのカード」を描いてもらっている。

(会長) 絵のタッチはすごく良いと思う。文章が10年後と書いてあるのに、絵が現実なのでギャップが出てしまっている。

(事務局) その点については、イラストレーターと協議したい。下線については、会議での説明用に線を引いているだけで、完成版ではこの線は消すことになっている。

(委員) シビックプライドという言葉が何度か出てくるが、これはすごく大事なことになってくると思う。分野「子ども」の③にある「地域全体で子育てや教育を支える体制の充実」に、言葉として「こういうものをしていけたら良い」というものがあっても良い。「10年後のまちのすがた」として、子どもが地域に携わって、何かものを作っていく、子ども達が行事に参加して良くしていこうというものがあっても良いと思う。

(事務局) シビックプライドは、言葉としては19ページ、20ページには記載していなかったが、シビックプライドの内容は盛り込んでいるつもりでいた。具体的には20ページの②の1個目のポイントの「『郷土を愛する心』を育みます」で、塩竈を本当に好きでいてくれる子ども達を育てることを目標に掲げている。シビックプライドという言葉そのものを書くかどうかは改めて検討させていただく。

(委員) 私の方では3つある。1つ目は絵にしているということが大きなポイントである。今後の話だが、市民に配る時に絵の部分を冊子にして、幼稚園児や小学生に配ってはどうか。また、理解できる年齢に合わせて、施策の項目を入れてはどうか。小さい子には、絵本のように作ったら、成果が生き、また真新しい施策になるのではないかと思う。

2つ目はSDGsについてである。キーポイントは誰一人取り残さないということである。20ページに④として「誰一人取り残さない体制の充実」と入れたら良いのではないか。なぜかというと、今貧困が非常に問題となっている。7人に1人が格差を感じており、さらに増えてくるだろう。所得格差のジニ係数も日本では上ってきており、目に見えない形で格差が広がってきている。子ども、高齢者が取り残されている。「境遇や環境に関係なく、全ての子ども達の生活、成長、学びを支えるよう取り

組みます」といったものが良い。おそらく政策的な課題としても上がってくるので、この点をカバーしておくが良い。

もう1点は、26ページの②の4つ目として「リモートワークの受け皿づくりと拡充に取り組めます」と書いてほしい。ワーケーションはリゾートへの利活用と言われているが、実際に仙台の方が、東京に行かないでリモートワークをやっていることがNHKの朝のニュースで取り上げられていた。塩竈でも同様に仙台に行かないで済む「リモートワークの受け皿づくりと拡充」を追加したら良い。

(事務局) 最初の小さい子ども達に絵本としてお渡しし、年齢が上がるにつれて文章を増やしていくというご意見は、非常に面白いと思う。正に、市民が手に取って、ずっと読んでいただけるように、絵と文章で皆が同じシーンを思い描けることを一番のポイントとして作っている。是非チャレンジしたいと思う。

2つ目は20ページのSDGsについて、こちらも検討させていただきたい。おそらく④として新しく作ることになると思う。他との整合性を踏まえながら検討したい。最後に26ページのリモートワークについて、コロナ禍の影響もあり、今後リモートワークが当たり前の時代になってくる可能性もある。その中で、10年後のまちのすがたの方は難しいかもしれないので、施策の柱に1つ設けることについて検討させていただきたい。

(会長) 塩竈の「俳句かるた」のようなものを作ったら面白いかもしれない。

ステルス型の目に見えない貧困は結構深刻で、対応が必要になってくると思う。

ワーケーションについては浦戸諸島に可能性があると思う。定住できなくても、日中の滞在は可能なので活用の仕方はあると思う。学校の校庭というのは比較的規制から全部外れてしまうので、上手く活用していくのも手だと思う。

③資料編について

(会長) 資料編にも、先ほど指摘された同じ帯グラフが載っているが、2つ載せたのは何か意図があつてのことか。

(事務局) 後ろの資料編からピックアップして前の方に載せたもので、2つ載せている意味は特に無い。

(委員) 資料編ということで、様々な資料が掲載されている。ワークショップやヒアリング、アンケートの内容も大事だと思うので、載せるのはよいのだが、他の統計データと違って資料として示しにくいとしても、表現はもっとコンパクトにならないか。

(会長) 本当は、このグラフとこのグラフを合わせるとこれに分かるという説明があると丁寧な参考資料になる。

(委員) 43ページの重要度・満足度がクロス集計された表は使える。分野別にして、次回の改訂時に市民の意見がどう変化したか比較してみると良い。

(会長) 塩竈市は以前からこのデータを取っているので使える。

(委員) 47 ページには国勢調査と住民基本台帳の2つのデータが載せてあるが、データはどちらかに絞った方が良いのではないか。

(事務局) 確かに国勢調査と住民基本台帳のデータが、平成 27 年には 2 つの数字があり、どちらが正しいのかと思われる方が多いかもしれない。しかし、どちらにも重要な役割がある。国勢調査の人口は、各種数値や各社の指標の基となっていて、本当の分母の数値のようなものである。また、住民基本台帳の人口は、実際に住民票として登録されている数を毎年確認している、生の数字と言える。それぞれに意味があるので、双方を精査して載せさせていただいた。

(会長) 今日は面白い意見、貴重な意見が一杯出たので、事務局でも反映させてほしい。

(事務局) 閉会の前に、1 つ事務局からお願いしたい。15 ページの目指す都市像は一定程度のご理解やご賛同をいただいたと思うが、あらためてアンケートなどでご意見を伺う機会を設けたい。ぜひ、忌憚の無いご意見をお待ちしている。

5. 閉会

(事務局) 今回のご意見やワークショップの取り組みから、市民の皆様のご意見を十分に反映し、さらに基本構想(素案)をさらにブラッシュアップしてまいりたい。次回の審議会は、詳細が決まりしだい、案内文書を送付する。